

「不安、困りごと何でも」

都内避難所で大山・かち都議

日本共産党の大山と
も子、かち佳代子両東
京都議は18日、東日本
大震災による福島第1
原発事故で都内に避難
してきた被災者を受け

入れている味の素スタ
ジアム(調布市)を訪
ね、避難者と懇談、激
励しました。同日午後
4時までに約50人を受
け入れています。

同スタジアムは会議
室5室や体育館で最大
700人の受け入れを
予定し、1人用のじゅ
うたんと毛布を提供、
昼間は保健師2人が常
駐しています。

両氏は避難者に「不
安や困っていることな
ど何でも言ってくださ
い」と語りました。
福島県いわき市の女

性(60)は夫と娘夫婦、
その娘とともに避難し
てきました。「夫は病
院で人工透析を受けて
いる最中に、地震が起
きました。避難して透
析できなくなりまし
たが、新宿に移送され
入院することができま
した」といいます。

別の男性(46)は妻
(43)、中学2年、小学
6年の息子2人と避難
してきました。自宅は
無事でしたが、断水で
浄水場へ行って水をも

らうため4時間並んだ
といいます。

地震で子どもの終業
式も卒業式も中止にな
りました。「原発事故
の子どもへの影響が心
配で、若い世代などが
県外に避難している。
政府はどこまで危険で
どこから安全なのか明
確にしてほしい」と訴
えました。

都内に避難した被災者
から話を聞く(左か
ら)大山、かち両都議
18日、東京都調布市

